

見てみやー！ やってみやー！ 食べてみやー！ 自ら守る防災

メンバー 山口 美穂、野村 健太、田代 智哉、石川 祈楽、仲川 拓斗、佐藤 有紗、天木 桃那、小山 真輝
8人（社会人1人、大学生1人、高校生3人、中学生3人）

<第1回>



グループ名 ぶどう

<町が提示した課題>

- 若者の防災意識向上
- 自然環境学習の森における保全活動の充実
- 若者に対する選挙啓発
- 若者会議への積極的な参加

<その他>

- グループで見つけた課題

取組課題 若者の防災意識向上

<第2回>

現状

- 東浦町では、災害時に災害対策本部を設けている。
- 広報やホームページに防災の情報を記載している。また、防災訓練時等に防災啓発を行っている。
- 東浦の住民は、全員自主防災会に所属している。

困っていること

- 住民の中には防災を意識している人もいるが、若者の防災への関心がない。
- 防災の情報を上手く伝えられていない。

どのようにしたい？（目標）

- 防災に関心を持ってもらいたい

目標達成のために注目する目的

- どうやって防災の情報を住民に伝えるか（手段）



アイデア出し

- 東浦町が面白い防災グッズなどのパンフレットを作って、学校などで配る
- イベントの中で、防災コーナーを作る
- 運動会の種目に防災関係のものを入れる → 景品も
- うんこドリルのようにおもしろく情報を伝える（気を引く）
うんこハザードマップ（仮）
- 防災訓練に行きたくするような内容を詳しく伝える
→はしごにのぼる、アスレチック

<第3回～第4回>

事業内容

若者といっても幼児から20歳までと幅広く、全部のターゲットに防災の情報を伝えるのは難しい。なので、於大まつりなどのイベントにブースを設けることによって、身近に住民に防災の情報を伝え、危機感を持ってもらい、普段から防災訓練に参加してもらうなどの動機づけになることを狙っている。

- 於大まつりなどのイベントで防災ブースを設ける
ブース内でやること
 - ・ 消火器体験
 - ・ 災害時のCG映像
 - ・ 非常食の試食会
 - ・ 土のう作り体験

実施に必要なもの、お金がかかるもの

- ブース
テント、机、イス、ブルーシート、出展の場所
- 消火器体験
水消火器、的、水
- CG
CG映像、プロジェクター、スクリーン、PC
- 試食会
防災食・非常食
- 土のう作り体験
土のう袋、土、穴あきバケツ、スコップ、軍手

- お金のかかるもの
CG映像、防災食・非常食、土

利点

- イベントに来た人をターゲットに多くの人に興味を持ってもらえる

欠点（問題点）

- CGの映像にお金がとてもかかる
- イベントに若者が来るか、ブースに来てくれるか



克服アイデア

- 地域の学生、学校に協力してもらう

行政がやること

- 消火器の用意
- モニター
- CG映像の用意
- 非常食の用意
- 土のう袋の用意
- 土のうに詳しい人

自分たちにできること

- 消火器、土のう体験の説明
- 非常食の調理、説明